

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

岩手県

●地域における現状・課題

- ・本県における部活動は、他都道府県と比較して高い部活動加入率のもと、これまで地域の実情に合わせた形で行われ、人格形成に多大な影響を与えています。
- ・生徒数の減少や中学生のスポーツ・文化活動の多様化により、学校にある部活動だけでは中学生のニーズに応えることが難しくなってきました。
- ・各市町村においては、地域クラブ活動への移行について、地域の実情に応じ、関係者の共通理解の下、できるところから取組を進めることを求めており、実施可能なスポーツの競技種目や活動等から取り組むこととしています。

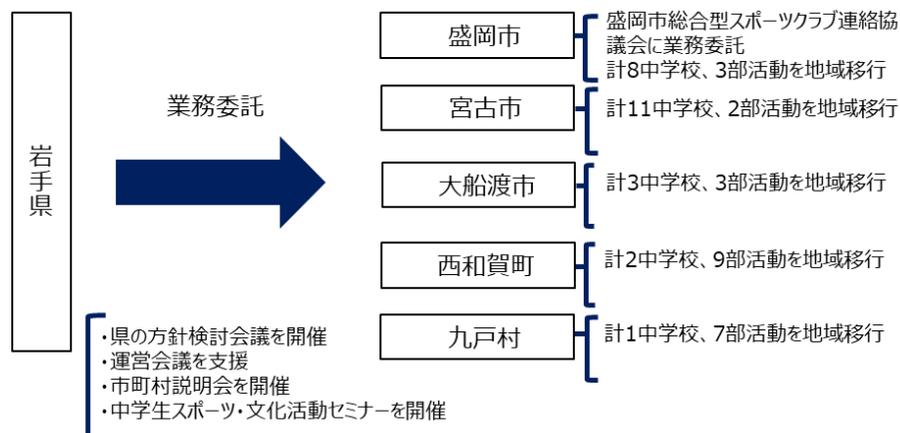
●取組事項の概要

- ・実証事業を実施する市町村が設置する検討組織への指導・助言等を行い、地域クラブ活動を実施する上での成果や課題を整理し、持続可能な組織体制の整備を支援。
- ・実証事業を実施する各市町村、県のスポーツ関係団体等と情報共有しながら、各地域特有の課題解決に向けた支援を実施。
- ・これまでの実践研究の成果や課題等を実証事業を実施する市町村と共有し、適切な費用負担や困窮世帯への支援策の取組を支援。

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・本県における学校部活動の地域クラブ活動への移行に向け、各市町村において地域クラブ活動への移行に向けて取り組む際、運営団体等において担うことが想定される業務や各種手続き等を整理した「公立中学校の学校部活動における地域クラブ活動への移行に向けた手引き」を作成した。
- ・実証事業の実施とともに、R3.3岩手県「中学生スポーツ・文化活動に係る研究」有識者会議からの提言「いわての中学生のスポーツ・文化活動のこれから」の内容も踏まえ、国のガイドラインを参考に、「岩手県における学校部活動の新たな地域クラブ活動の在り方に関する方針」検討会議を設置し、有識者の意見を伺いながら方針を策定した。
- ・方針策定に係る有識者会議について、今後、協議会への移行を見据え、学校関係団体の他、地域クラブ活動の受け皿として想定される関係団体を構成員とした。

●運営体制図



令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

岩手県盛岡市

●地域における現状・課題

- ・ 中学校の生徒数が微減の傾向が続き、運動部活動数も生徒数と同様に微減の傾向となっている。
- ・ 部活動の加入率については、様々な要因により大幅に減少しており、子どもたちにスポーツ活動の場を持続して提供する必要がある。
- ・ 部活動に所属していない子どもも含め、子どもたちが多種多様な運動に親しむことができる環境の充実を関係団体等と協力・協働して取り組む必要がある。

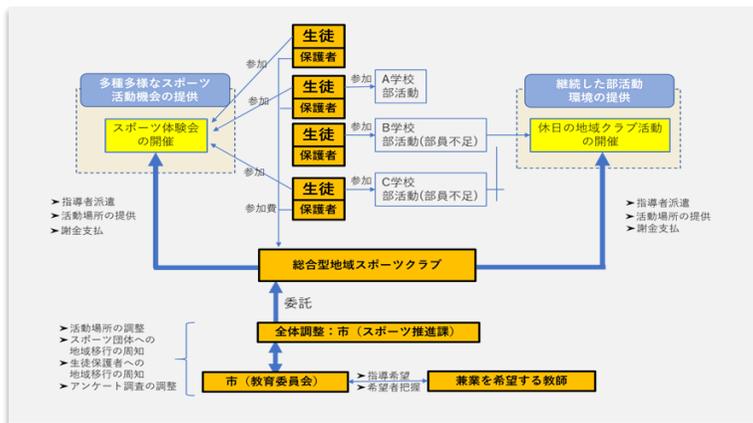
●取組事項の概要

- ・ 実証事業の検討・運営会議を設置し、実施校、市PTA联合会、市中学校体育連盟、市スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブなどの関係者から意見聴取し、調整を行いながら、実証事業の方針を決定した。
- ・ 運営主体の総合型地域スポーツクラブの指導者を確保しつつ、岩手県のスポーツリーダーバンクを活用し、競技協会などと連携して適切な指導者を確保した。
- ・ 3年生の引退で、部員数が少なくなる時期に十分な活動ができるよう、地域クラブ活動の場を提供し、部活動の種目の競技を継続させた。
- ・ 子どもたちに様々なスポーツの体験機会を提供することを目的に、多種多様なスポーツ体験会を開催した。

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・ 部活動をしている生徒、その保護者に直ぐに部活動がなくなるという誤解を与えないよう、実証事業の活動は、休日の地域クラブ活動の「体験会」という表現で実施
- ・ スポーツリーダーバンクの登録者情報だけでは分からない情報を競技協会との連携により補った。
- ・ 種目の選定については、学校から継続が難しくなる部活動を聞き取り、希望も踏まえて地域クラブ活動の種目を選定した。
- ・ 多種多様なスポーツ体験会の種目については、運動部活動の種目にはない種目で子どもたちが興味を持ち、質の高い指導が受けられる種目にした。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- (1) 運営類型：地域スポーツ団体等運営型（総合型地域スポーツクラブ運営型）
- (2) 運営主体：盛岡市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
- (3) 種目：ハンドボール、軟式野球、卓球
- (4) 指導者の主な属性：総合型地域スポーツクラブ指導者
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：2回
- (6) 主な活動場所：市スポーツ施設
- (7) 主な移動手段：保護者車送迎
- (6) 1人あたりの参加会費等（年額）：400円/年
- (7) 1人あたりの保険料：生徒400円/指導者1,850円

岩手県宮古市

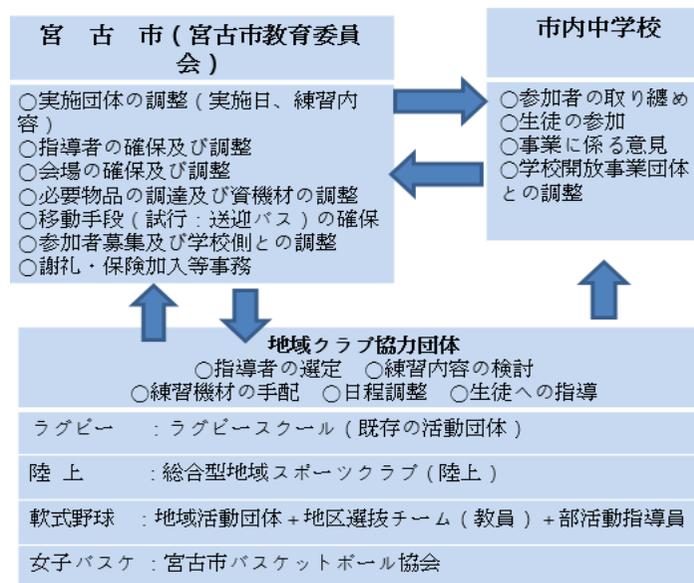
●取組事項の概要

| 実証事業内容 | 実施内容の詳細 |
|---------|---|
| アンケート調査 | 市内中学校・小学校（4年～6年生）※保護者含む、教員、スポーツ・文化関係団体 |
| 地域クラブ活動 | ラグビー（1/27 市民総合体育館 9名） 陸上（1/28 宮古運動公園陸上競技場 3名） 軟式野球（2/4 グリーンピア三陸みやこ 15名）、女子バスケットボール（2/4 第一中体育館 15名） |

●地域における現状・課題

| 現状 | 実証事業で把握した課題 | 課題解決に必要な事柄 |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○市域が広く移動手段確保が必要 ○市街地、中山間部、山間部に中学校が有り地域により部活動の種目数に差がある。 ○種目によって専門的な指導ができる教員の確保が難しい。 ○地域への移行にあたり受入れる団体を検討する必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ○送迎バスを運行したが、利用者が少ない。 ○試行的な地域クラブの活動を行ったが、山間部からの参加者が無い。 ○教員にも協力的な方がいる。しかし転勤がある。競技団体もマンパワー不足。体制の整備が必要。 | <ul style="list-style-type: none"> ○公共交通機関及び宮古市関係課と連携した公共交通機関を利用した移動の支援。 ※最寄り駅・バス停から出発で便利になる ※バス借上げよりも安価に対応できる。 ○受け皿の団体として、競技団体、スポーツ関係団体等を中心とした体制づくりを検討したい。 |

●運営体制図



令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

岩手県大船渡市

●地域における現状・課題

- ・少子化の影響と部活動の任意加入化、選択肢の多様化に伴い、部員数が減少し、学校によっては通常の練習や大会参加にかかる知務編成に支障をきたしている。
- ・小規模校においては、選択できる部活動が限られており、自校に希望する部活動の種目がないことから、部活動に所属しない生徒が増加している。
- ・今後、生徒数は年々減少していく見込みであり、現状の学校を単位とした部活動の維持はますます困難となっていくことから、地域単位に移行していく必要がある。

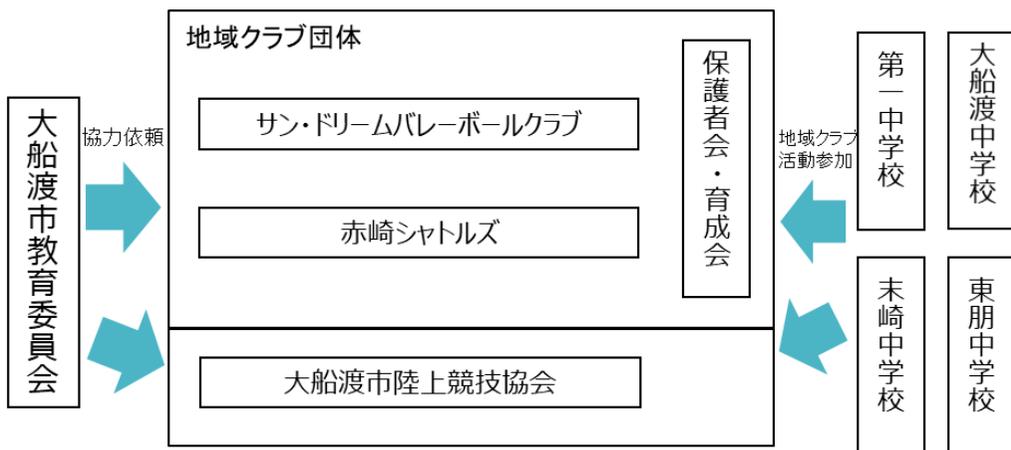
●取組事項の概要

- ・市内に1校しかない部活動について拠点校方式を実施し、受け皿となる地域団体・指導者の確保や、関係機関の協力体制の構築を図る。
- ・市内中学校に設置されていない種目で、需要の高い競技について、生徒が活動できる環境を整える。

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・各種目において指導者を2人以上配置し、専門的な指導を受ける場を提供することができた。
- ・運営団体において、連絡網の作成、練習日の設定、会費の設定と徴収、保険加入手続きを行うなど、運営体制を整備することができた。
- ・教育委員会で教員の兼職兼業の基準を整理することができた。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- (1) 運営類型：市町村運営型（地域団体・人材活用型）ほか
- (2) 運営主体：大船渡市教育委員会
- (3) 種目：男子バレーボール、バドミントン、陸上競技
- (4) 指導者の主な属性：地域の指導者、競技団体
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：3回～6回程度
- (6) 主な活動場所：拠点校、高等学校
- (7) 主な移動手段：保護者による送迎、徒歩・自転車
- (6) 1人あたりの参加会費等（年額）：12,000円/年
- (7) 1人あたりの保険料：生徒800円/指導者1,850円

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

岩手県西和賀町

●地域における現状・課題

- ・少子高齢化と人口減少により、中学校の生徒数が減少し、単独校での部活動が難しくなっている。
- ・地域のスポーツ団体も構成員の高齢化、組織の硬直化が進み、部活動の地域移行を進めるにあたっての受け皿となる団体が無い状況である。
- ・中学校の部活動においては、これまで全国大会への出場を果たすなど、輝かしい成績を残しており、子どもたちのスポーツに対する意欲は強い。

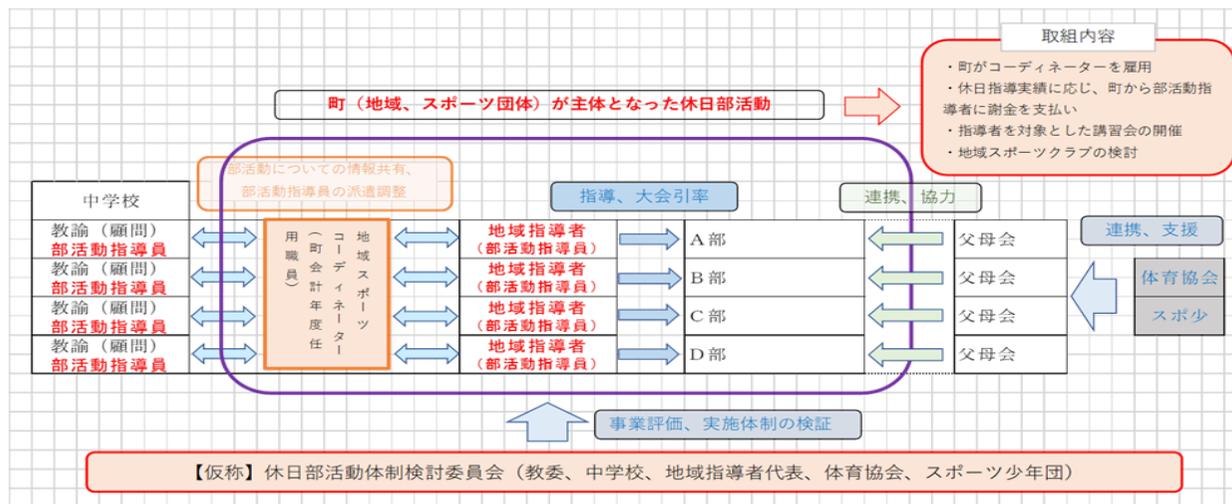
●取組事項の概要

- ・平日の部活動の外部指導者を休日のスポーツクラブ活動の指導者に委嘱し、休日の部活動の地域移行に取り組んだ。
- ・地域スポーツコーディネーターを配置し、学校と指導者間における活動の調整を図り、スムーズな運営に努めた。
- ・指導者を対象とした研修会や、生徒と保護者を対象としたアンケート調査を行い、指導者の資質の向上に取り組むとともに、意識調査を行った。

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・平日の外部指導者を休日の指導者に委嘱することで、今回の取組に伴う変化を最小限にとどめることで生徒及び保護者の混乱を生じないように努めた。
- ・研修会にあっては、スポーツに関する指導のみならず、地域移行に関する基本的な部分も研修会に含めることで、部活動の地域移行への理解を深めるよう務めた。

●運営体制図



令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

岩手県九戸村

●地域における現状・課題

・当村の現状は学校部活動のほか、部活動に在籍する生徒の保護者で構成する組織「部活動育成会」があり、学校部活動以外の練習及び大会等の遠征（平日、休日含む）などの実施に協力を頂いている。部活動育成会では多種多様な形で生徒たちの活動を支えているが、費用面の負担や、指導者の代替わりの際の後任探しに苦慮している状況である。部活動の段階的な地域移行に向けて、保護者・拠点校・教育委員会・競技団体等関係者による課題意識及び目指すべき姿の共有を図るとともに先に述べた費用的な課題の解消、更には他市町村との連携も視野に入れていかなければならないと考えている。

●取組事項の概要

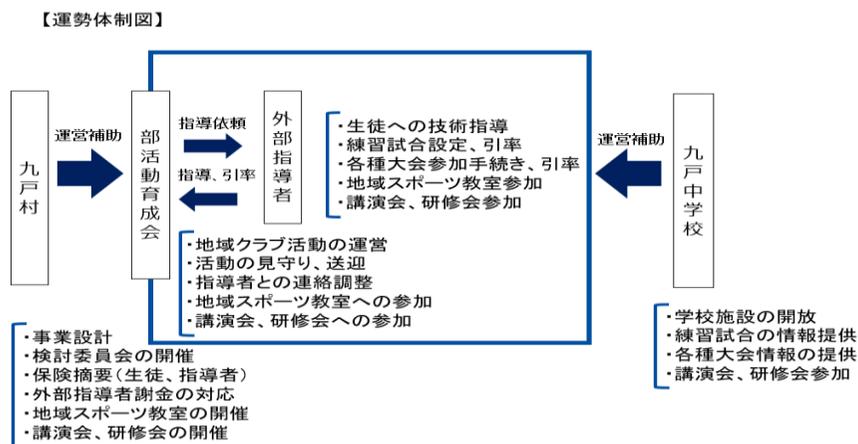
・部活動育成会、指導者、体育協会、各競技種目の協会、拠点校、教育委員会で構成する「九戸村部活動地域移行準備検討委員会」を発足し、部活動地域移行のための課題や今後の方針について意見のすり合わせを行う。また、各部活動育成会の活動費のうち、指導者に対する謝礼を村から支払うとともに、本格的な地域移行に向けた保護者負担費用の検討を行う。その他の取組の一部として、指導者のスキル向上に向けた研修等を実施することで技術指導のレベルアップを図ると共に、村内の各競技団体をベースに人材バンクを作成し、指導者の負担軽減及び後継者不足を解消するための整備を行う。

●取組の成果、特に工夫した点等

・当初予定していた部活動育成会への補助金交付は、実証事業にそぐわないことから、指導者への謝礼の支払いを地域クラブ活動として認められた「女子バレーボール」「男子バレーボール」「女子バスケットボール」「卓球」「ソフトテニス」以上5つの部活動で実施。

・当初計画では「地域スポーツ振興協議会」が、各クラブ活動に対して競技指導者の選定・派遣を行う予定だったが、「地域スポーツ振興協議会」の立ち上げまでは至らなかった。また、村体育協会傘下の各競技団体の人員不足もあり、競技指導者の選定・派遣は実施出来なかった。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- (1) 運営類型：市町村運営型（地域団体・人材活用型）
- (2) 運営主体：部活動育成会
- (3) 種目：女子バレーボール、男子バレーボール、女子バスケットボール、卓球、ソフトテニス
- (4) 指導者の主な属性：市町村運営型（地域団体・人材活用型）
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：
女子バレーボール：月2回程度、男子バレーボール：月2回程度、
女子バスケットボール：月1回程度、卓球：月5回程度、ソフトテニス：月1回程度
- (6) 主な活動場所：九戸中学校体育館、村内小学校体育館
- (7) 主な移動手段：自家用車（部活動育成会）
- (6) 1人あたりの参加会費等（年額）：
女子バレーボール：0円/年、男子バレーボール：0円/年
女子バスケットボール：0円/年、卓球：0円/年、ソフトテニス：0円/年
- (7) 1人あたりの保険料：生徒800円／指導者1,850円